

2019年3月期  
決算ダイジェスト

2019年5月14日



# 2019年3月期 決算ハイライト



## 【連結】 (百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	前期比	増減率
経常収益	9,367	<b>9,022</b>	△345	△3.7%
経常利益	526	<b>777</b>	+251	+47.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	391	<b>259</b>	△132	△33.8%

## 【単体】 (百万円)

	2018年3月期	2019年3月期	前期比	増減率
経常収益	9,285	<b>8,927</b>	△357	△3.9%
コア業務純益	359	<b>372</b>	+13	+3.8%
経常利益	534	<b>764</b>	+230	+43.2%
当期純利益	400	<b>247</b>	△153	△38.3%

## 【自己資本比率(バーゼルⅢ)】

	2018年3月末	2018年9月末	2019年3月末	前期末比
連結自己資本比率	8.14%	8.12%	<b>7.70%</b>	△0.44%
単体自己資本比率	8.14%	8.11%	<b>7.70%</b>	△0.44%

## 【不良債権比率(金融再生法開示債権比率)】 (百万円)

	2018年3月末	2018年9月末	2019年3月末	前期末比
金融再生法開示債権額	12,839	11,773	<b>12,012</b>	△827
不良債権比率	4.16%	3.83%	<b>3.90%</b>	△0.26%

○ 連結決算は、減収(2期ぶり)・増益(3期ぶり)となりました。

・ 経常収益	9,022百万円	(前期比△345百万円)
・ 経常利益	777百万円	(前期比+251百万円)
・ 親会社株主に帰属する当期純利益	259百万円	(前期比△132百万円)

○ 単体決算は、減収(2期ぶり)・増益(3期ぶり)となりました。

・ 経常収益	8,927百万円	(前期比△357百万円)
・ コア業務純益	372百万円	(前期比+13百万円)
・ 経常利益	764百万円	(前期比+230百万円)
・ 当期純利益	247百万円	(前期比△153百万円)

・ 連結自己資本比率は 前期末比0.44%低下し7.70%となりました。

・ 不良債権比率(金融再生法開示債権比率)は前期末比0.26%低下の3.90%となりました。

(注)自己資本比率低下の要因は、リスク・アセットの増加(分母)、ソフトウェアの控除等(分子、但し償却に伴い回復)によるものです。

# 2019年3月期 単体決算の概要



## (単体) 損益概況

【単体】	(百万円)		
	2018年3月期	2019年3月期	前期比
業務粗利益	5,914	6,218	+304
(除く債券関係損益)	5,909	5,918	+9
うち資金利益	5,827	5,917	+89
うち役員取引等利益	245	274	+28
うち債券関係損益	5	299	+294
経費(△)	5,550	5,546	△3
実質業務純益(※1)	364	672	+308
コア業務純益(※2)	359	372	+13
一般貸倒引当金繰入額(△)	—	—	—
業務純益	364	672	+308
臨時損益	169	92	△77
うち株式関係損益	46	△46	△93
うち不良債権処理費用(△)	5	6	+1
うち貸倒引当金戻入益	556	629	+72
経常利益	534	764	+230
特別損益	25	△387	△412
税引前当期純利益	559	377	△181
法人税等(△)	16	41	+25
法人税等調整額(△)	141	88	△53
当期純利益	400	247	△153
与信関連費用(△)(※3)	△570	△622	△52

※1. 実質業務純益 = 業務粗利益 - 経費

※2. コア業務純益 = 業務粗利益 - 債券関係損益 - 経費

※3. 与信関連費用 = 与信に関する費用のことで、主に債権の回収が不可能となった場合の「償却額」や債権が劣化したことで積み増す「貸倒引当金繰入額」を示す。

与信先の業績回復に伴い、貸倒引当金の取崩を行う場合は「収益」として計上され、△表示は戻入益を示す。

業務粗利益 (前期比+304百万円)  
・資金利益の増加および債券関係損益の増加により、前期比増加いたしました。

経費 (前期比△3百万円)  
・新勘定系システム関係の費用が増加したものの、引き続き他の経費の圧縮に努め、前年度同水準となりました。

コア業務純益 (前期比+13百万円)  
・経費の圧縮に努め、資金利益および役員利益が増加したことにより、前期比増加いたしました。

与信関連費用 (前期比△52百万円)  
・お客様の業況改善等の影響もあり、引き続き貸倒引当金は戻入となり、戻入益は前年度を上回りました。

経常利益 (前期比+230百万円)  
・コア業務純益の増加、債券関係損益の増加等により、前期比増加いたしました。

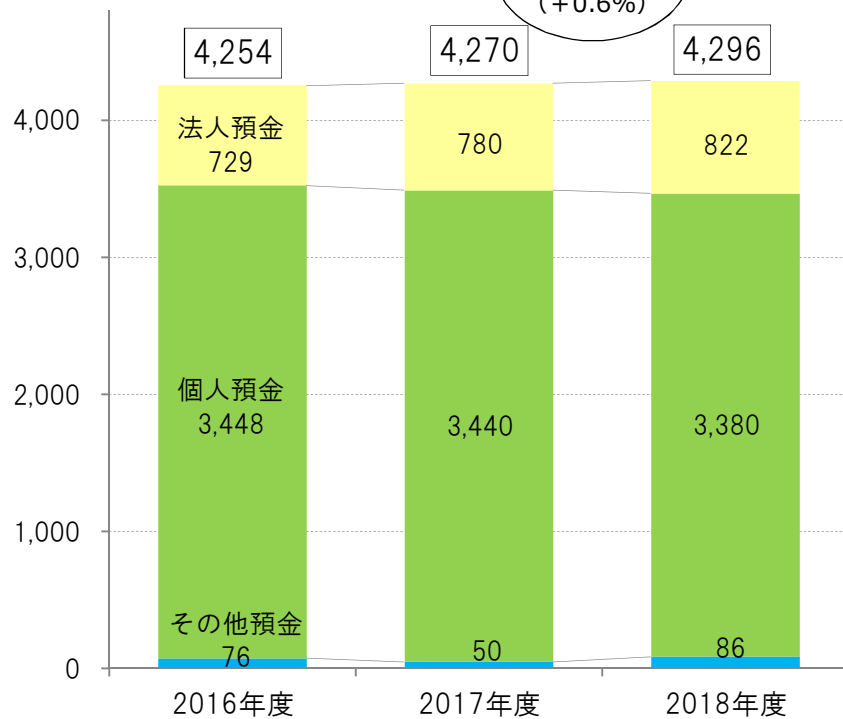
当期純利益 (前期比△153百万円)  
・経常利益は増加したものの、新勘定系システム構築に係る費用のため、前期比減少いたしました。

# 預金・預かり資産

- ・預金平残は、法人預金が増加したこと等により、前期比25億円増加し、4,296億円となりました。
- ・預かり資産残高は、投資信託口数は増加したものの、株式市場等の動向を反映して、残高(時価)は減少いたしました。

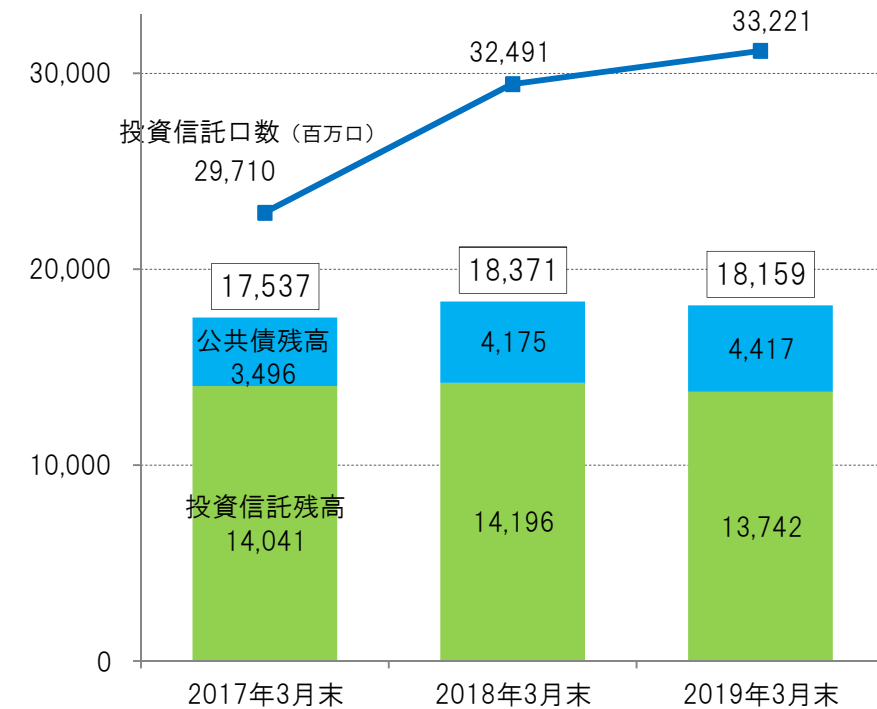
## 預金平残推移

(億円)



## 預かり資産残高推移

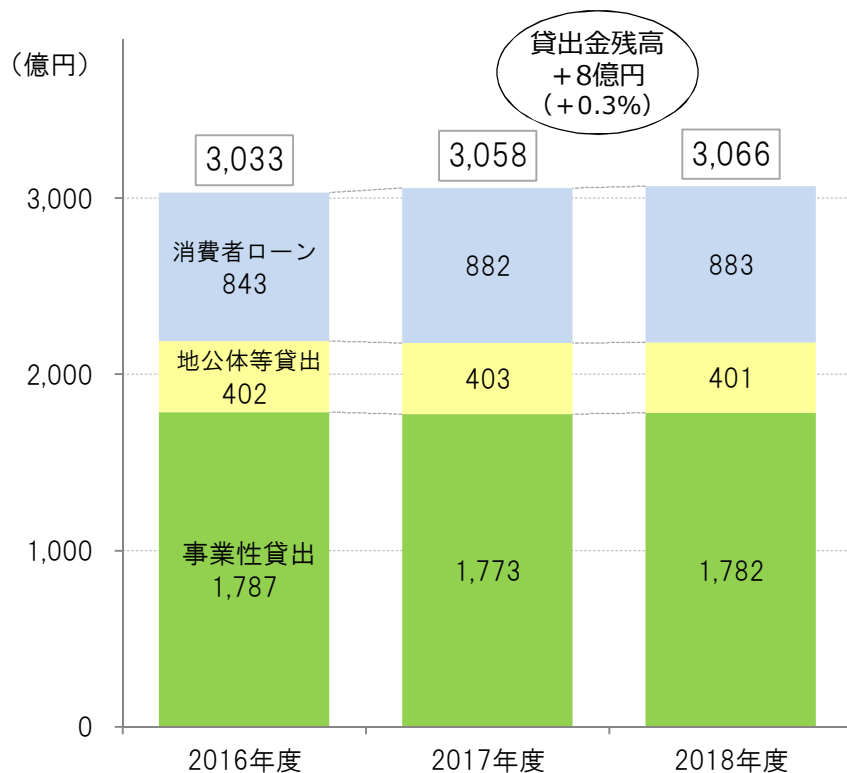
(百万円)



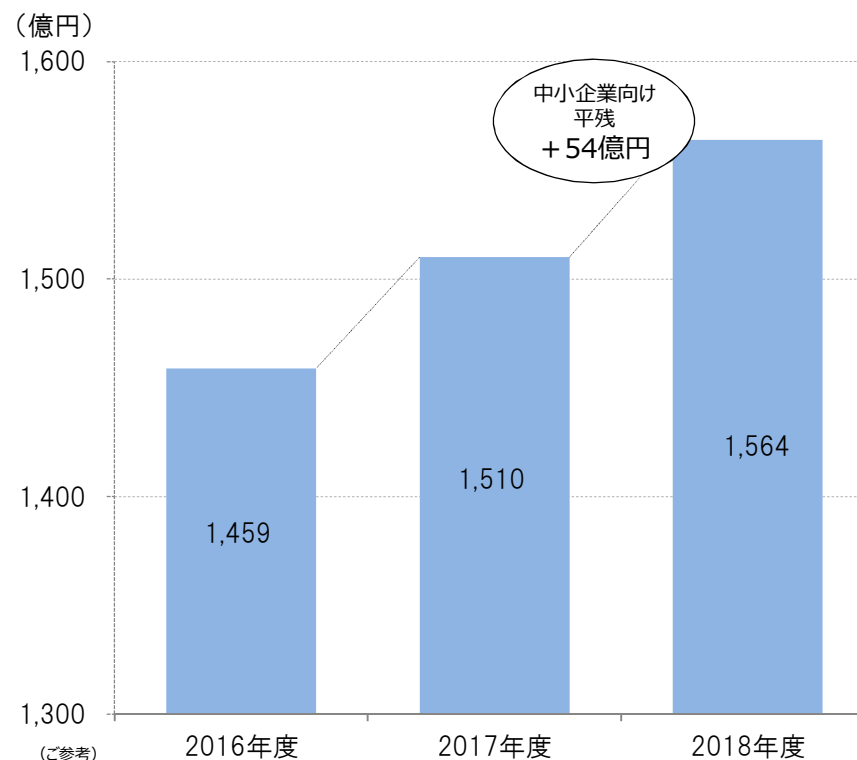
# 貸出金

- ・ 貸出金平残は、事業性貸出が増加したことにより、全体で前期比8億円増加し、3,066億円となりました。
- ・ 中小企業向け貸出平残は、前期比54億円増加し、1,564億円となりました。

## 貸出金平残推移



## 中小企業向け貸出平残推移

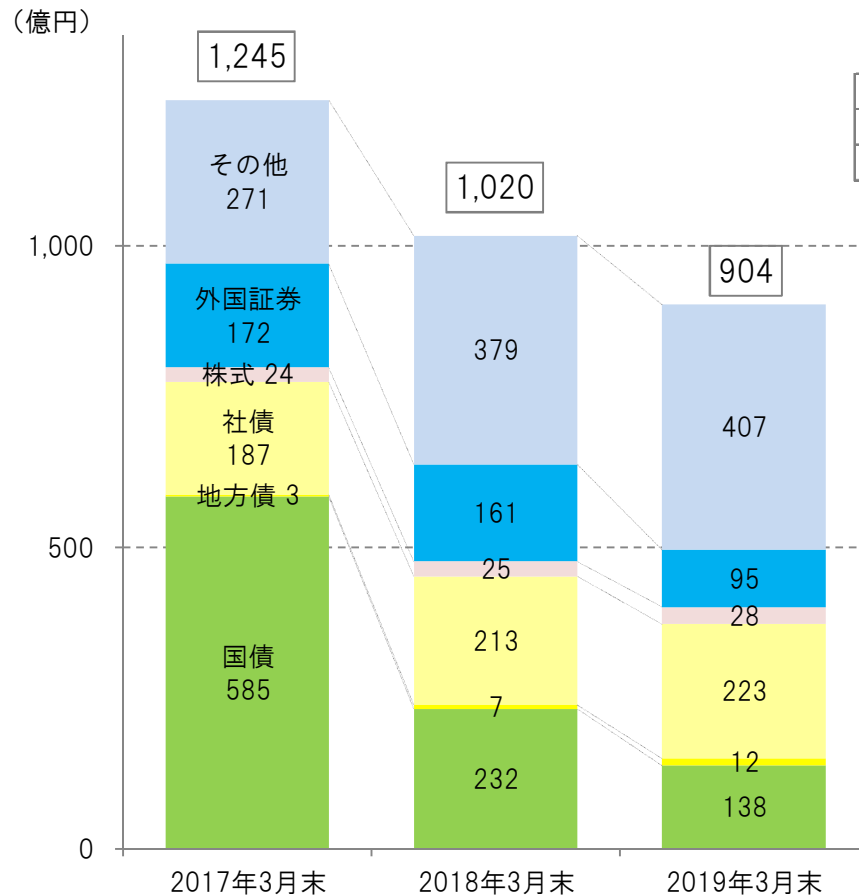


企業先数 (件)	2016年度	2017年度	2018年度
(前期比)	4,322 (△162)	4,521 (+199)	4,659 (+138)

# 有価証券

・有価証券評価損益は、債券の評価損益が増加したこと等により、前期末比44百万円増加の18億81百万円となりました。

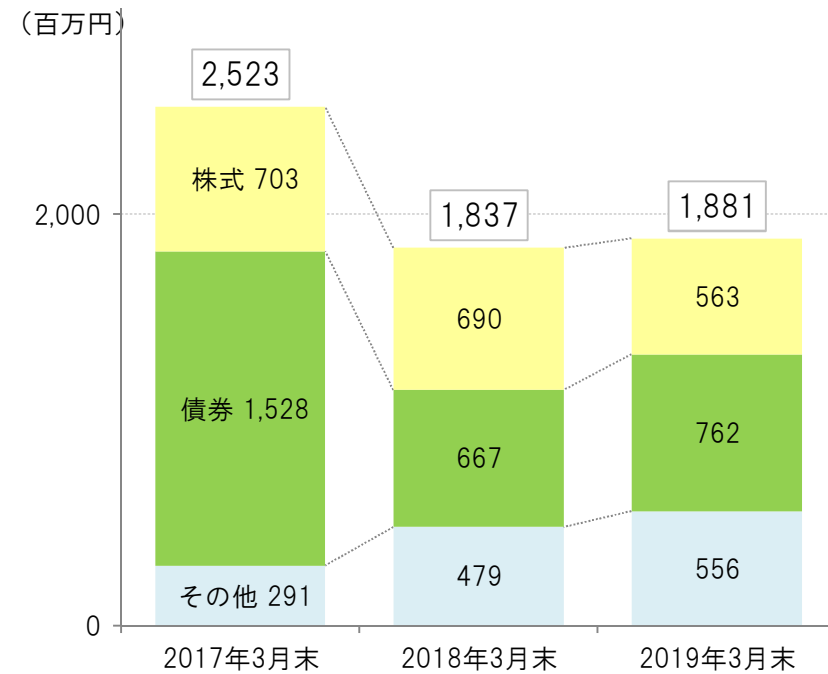
## 有価証券残高推移



## 有価証券評価損益推移

(ご参考)

日経平均株価 (円)	18,909	21,454	21,205
10年債国債利回 (%)	0.07	0.05	▲ 0.10
円・ドル (円)	111.8	106.2	110.7

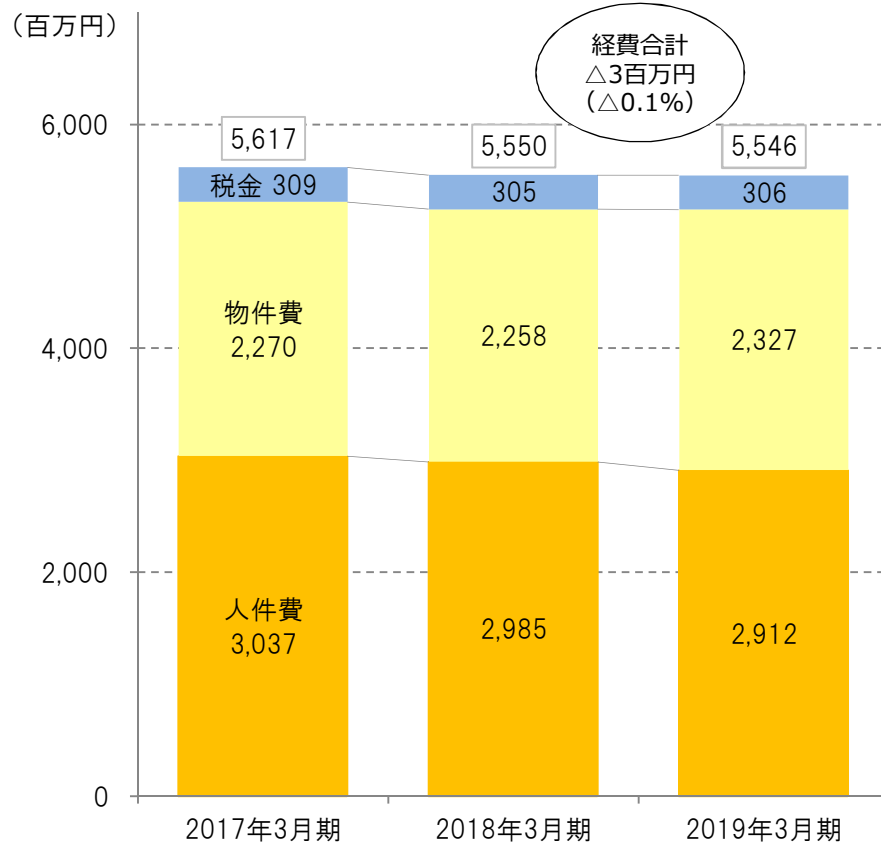


# 経費 / 不良債権の状況

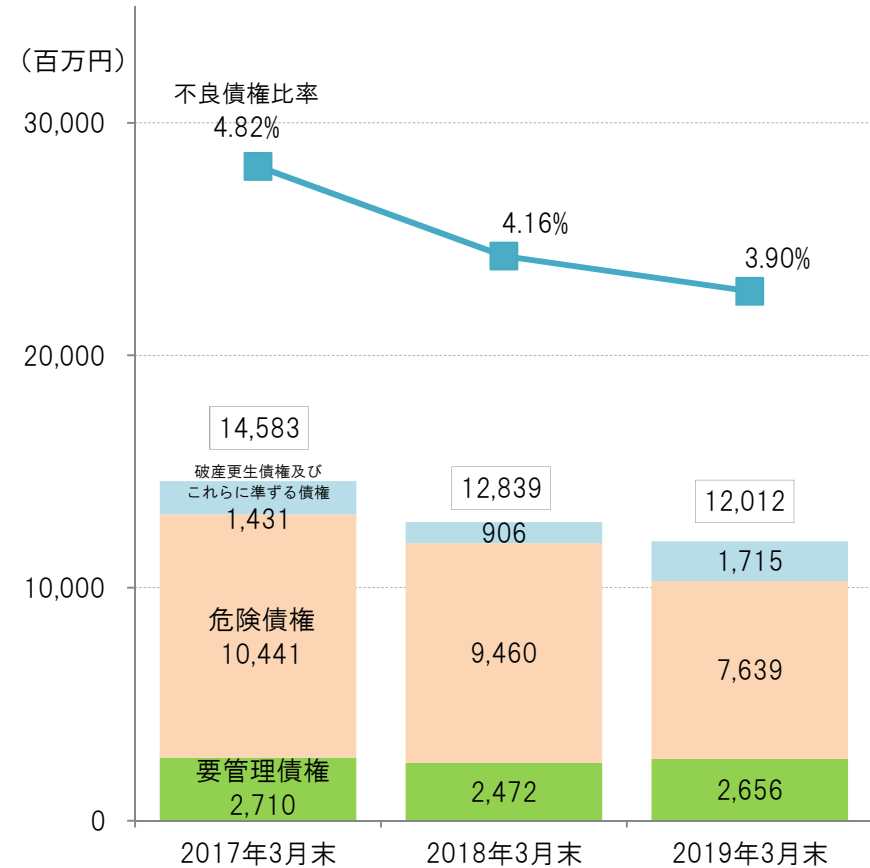
経費は、物件費が増加したものの、人件費及び税金が減少し、前期比3百万円減少の55億46百万円となりました。

不良債権比率は、危険債権の減少等により金融再生法開示債権残高が減少し、前期末比0.26%改善し、3.90%となりました。

## 経費の推移



## 金融再生法開示債権の推移



# 2020年3月期 業績予想

## 【連結予想】

(通期)		(百万円)		
	2019年3月期 通期	2020年3月期 通期	前期比	増減率
経常収益	9,022	<b>7,500</b>	△1,522	△16.9%
経常利益	777	<b>320</b>	△457	△58.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	259	<b>300</b>	+41	+15.8%

(中間期)		(百万円)		
	2019年3月期 中間期	2020年3月期 中間期	前年同期比	増減率
経常収益	4,455	<b>4,100</b>	△355	△8.0%
経常利益	580	<b>500</b>	△80	△13.8%
親会社株主に帰属する 中間純利益	496	<b>490</b>	△6	△1.2%

### 連結経常収益

・有価証券売却益の減少等により2019年3月期比減収を見込んでおります。

### 連結経常利益

・新勘定系システム稼働に伴う償却負担に加え、有価証券関係損益の減少等により2019年3月期比減益を見込んでおります。

### 親会社株主に帰属する当期純利益

・連結経常利益が減少するものの、新勘定系システム構築費用が不要となることから、2019年3月期比増益を見込んでおります。

## 【単体予想】

(通期)		(百万円)		
	2019年3月期 通期	2020年3月期 通期	前期比	増減率
経常収益	8,927	<b>7,400</b>	△1,527	△17.1%
経常利益	764	<b>320</b>	△444	△58.1%
当期純利益	247	<b>300</b>	+53	+21.5%

(中間期)		(百万円)		
	2019年3月期 中間期	2020年3月期 中間期	前年同期比	増減率
経常収益	4,409	<b>4,100</b>	△309	△7.0%
経常利益	579	<b>500</b>	△79	△13.6%
中間純利益	495	<b>490</b>	△5	△1.0%

## 【1株当たり予想配当金】

### 1株当たり予想配当金

・1株当たり3円を期末配当として予定しております。

	年間	うち期末
配当予想	3円00銭	<b>3円00銭</b>